

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子潮見保育園
施設所在地	東京都江東区潮見1-28-8ベイフレール潮見2、3階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音で五感を刺激し表現することを楽しむ。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

入園当初から保育の中で音の鳴る玩具に興味を示し、個々で集中して遊びを楽しむ様子が見られた。生活の中で必ず感じる音から探求心や人と関わる嬉しさ、表現の楽しさを子どもたちにも知ってほしいという思い、また、主体性保育を意識して行っており子どもの興味関心のあることから発達にアプローチをかけたいという思いから音というテーマを選んだ。

2. 活動スケジュール

〈4～6月〉

- ・保育者と一緒に保育室内にある音の鳴る玩具に触れ、その不思議さや感覚を楽しめるよう室内に様々な玩具を設置。
- ・戸外先や身近な場所で様々な音に触れ合えるような活動を展開する。(動物、車、玩具、缶など)
- ・フルーツマラカス、2種類の音の異なる鈴、サウンドボタンを購入し室内で音を楽しむことができるような素材を増やす。保育者に使い方を教えてもらいながら自分でも好きに触れてみる。購入した布での手作りの太鼓やマラカスを用いた活動を展開し、音の違いを知るきっかけを作る。

〈7～8月〉

- ・水に触れる活動で音を感じる。(袋に入れて、高い所から、手足でびちゃびちゃ)
- ・園の楽器(手作りカスタネット、購入した布での手作り太鼓、タンブリン、鈴、マラカス)を用いて音を鳴らすこと、不思議さを感じられるような活動を展開。
- ・保育者が子どもたちの好きな曲を楽器を用いて奏でることで、様々な音に触れ合う機会を作る。(Fl、Pic、Sax、AG)
- ・8月29日→鈴木楽器の演者に来園してもらい、様々な楽器の音を楽しんだり、大人の歌の音に心地よさを感じられるような機会を作る。

〈9月～10月〉

- ・枯葉に触れ合う活動を通して自然物から発生する音を感じる。(袋に入れて、握り潰して、足で踏んで)
- ・サウンドボタンに子どもたちの慣れ親しんだ写真や音を付けて、押し比べてみることを楽しむ。
- ・9月27日→運動会にてサウンドボタンを用いた競技を保護者も参加して一緒に楽しむ。

〈12月〉

- ・クリスマス発表会で鈴やフルーツマラカスを用いた音を楽しむ発表を保護者に見てもらい、子どもたちが音に触れ合い楽しんでいる様子を共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

室内：ミュージックパッドを購入し音の鳴る不思議さや楽しさを感じられるよう活動に取り入れる、保育者の持参した楽器の音を聞いたり興味のある部分に触れて楽しむ活動を展開、サウンドボタンを購入して保護者の声を録音し部屋の中にコーナーとして設置しいつでも押して楽しめるように環境を変更(普段の遊びの様子から、一つずつ押して楽しんでいる姿があったため運動会の競技にも取り入れた。)、フルーツマラカスや鈴を購入し好きな手遊び歌に合わせて触れることができるよう楽器コーナーを設置(12月20日に開催したクリスマス発表会にて鈴とフルーツマラカスを使用し奏でる楽しさが伝わるような発表を保護者に披露)、音の鳴る玩具・購入した布での手作り太鼓や手作りマラカスを楽しめるコーナーを設置しじっくりと触れてみるできるように環境を変更

戸外先：自然に触れることができる環境の中で、好きなものに手を伸ばし音を感じて遊べるような活動

- 夏→水を袋に入れてマラカス遊び、手で触れてびちゃびちゃ遊びを活動に取り入れ、音や感触を感じながら楽しめるような活動を展開
- 秋、冬→枯れ葉を袋に入れてみる、握り潰してみる、足で踏み音を楽しむことでじっくりと自然物に触れてみる時間を設けた

- ・演奏会を開催することで、様々な楽器の音を感じられるような時間を設けた

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 室内に音を楽しめるような玩具を設置。→好みに触れて興味を示す姿がある。
2. 子どもたちの音に対する気付きや音の違いを楽しむことができるよう、楽器コーナーを充実化。
保育者を模範して真似してみる→繰り返して自分でも鳴らして楽しむ。
(フルーツマラカス、2種類の音の異なる鈴、サウンドボタン、購入した布での手作りの太鼓やマラカス)
3. ○戸外活動では自然物を用いた音を感じられる活動を展開。
→7～8月は水に触れる活動：水面を他開いて音を立てたり、水を袋に入れて振ってみたりしながら感触と音の変化を味わう。9～10月では、枯れ葉を踏んだり握り潰したりすることで、自然が生み出す音に気付く。
○室内での活動では、ミュージックパッドやスタッフの管楽器に触れ合えるような活動、リズム体操で好みに体を動かしてみる活動を展開、演奏会の開催。
4. 「自分の働きかけによって音の響きが異なる」という音への気付きを活かし、サウンドボタンに顔写真や保護者の声を録音し、違いを覚えて押し比べることを楽しむ。継続した遊びとなり運動会の競技にも取り入れることで、保護者とも一体となって活動を楽しむ。
5. 好きな楽器を選び、発表会で使用。好きな音楽に合わせてリズムや音、音楽を楽しむ。
6. 音による子どもたちの興味・感心や遊び方の変化を振り返り、発信する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

保育の中で、子どもが音の鳴る玩具に興味を示す姿が見られたため、音を楽しめる玩具コーナーを設けた。最初は玩具に触れて感触を確かめるように遊ぶことが中心であったが、次第に音が鳴ることへの気付きが深まり、手を伸ばして保育者に笑いかけたり音の変化を楽しむ姿が見られるようになった。

そこで保育者が手遊び歌に合わせて楽器や手作りの太鼓を用いて鳴らしてみると、その動きを模範し「どん！」「チャチャチャ」等、声を出しながら音の響きを楽しみ遊びを広げていた。

子どもたちの楽器への興味が広がってきたことから、演奏会の開催、ミュージックパッドや保育者の管楽器・サウンドボタンなど、新しい音の素材を活動に増やしていった。

演奏会では、普段親しんでいる童謡や手遊び歌を様々な楽器の音で聴いたり、時には「にぎにぎ」と両手を握って前後に動かし一緒に体を動かしながら参加したりするなど、音や音楽を通して豊かに楽しむ姿が見られた。

ミュージックパッドに対しては初めは緊張する姿もあったが保育者や周囲の子どもが触れる様子を見て安心し、自ら手を伸ばして楽しむ姿へと繋がった。手で触れてみるだけでなく、「じゃんぷ」と足でも踏んで音を鳴らすことに発展していた。サウンドボタンには子どもの顔写真を貼り付け保護者の声を録音しており、子どもたちはどのボタンで誰の声が聞こえるのか理解し、順番に押したり、聴きたい時に自分で押したりする姿が見られた。興味・関心が深まったサウンドボタンを運動会の競技にも取り入れたことで、継続して楽しめるような遊びとなった。

戸外活動では、季節に応じた遊びを通して音に親しめるような活動を行った。7～8月は水に触れることを楽しむ子どもが多く、水面を他開いて音を立てたり、水を袋に入れて振り「ちゃぶちゃぶ」「ぼとん」等声を出しながら感触と音の変化を味わう姿が見られた。9～10月では、枯れ葉を踏んだり握り潰したりすることで、自然が生み出す音に気付き、楽しむ姿もあった。季節ならではの素材に触れながら、戸外でも音の広がりを感じて楽しむことができていたように感じている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動当初の子どもたちは、音の鳴る玩具に対して興味を示しながらも、まずは触れること自体を楽しむ姿が中心であった。また、子どもによっては初めて目にする玩具や素材に対しては慎重になり、周囲の様子を伺いながら触れてみようとする姿もあった。

その後、楽器やサウンドボタン、季節の自然物など多様な音の素材に継続して触れる機会を設けることで、子どもたちは「音が鳴る」という単純な気づきから、「自分の働きかけによって音の響きが異なる」といった、より音への興味へと繋がっていた。

保育者が音を鳴らして楽しむ姿を見て、子どもたちも模範を通して「どん！」「チャチャチャ」等声を出しながら自ら音を確認めたり、試行錯誤しながら音の変化を楽しんだりする姿へと変化していった。また、保護者の声を録音したサウンドボタンで遊んでいる際に友だちを指差し押し分けていく姿や、季節の素材から生まれる音にじっくりと触れ喜びを見出す姿から、日常にある音を自分なりに理解し、楽しみへと繋げている様子が見られた。

これらの姿を通して、子どもたちの感性は、生活の中にある様々な「音」との出会いによって刺激され、豊かに広がっていくことを改めて実感した。また、音に対する関心は繰り返しの経験や安心のできる環境の中で深まり、自ら音を生み出す喜びや表現へと繋がっていくことが分かった。

今後も、日々の活動の仲に音楽的な経験を自然に取り入れ、子どもたちが安心して音に触れられる環境を意図的にも整えていきたい。また、楽器や玩具に限らず水や枯葉、声など身近な音にも目を向け、生活のあらゆる場面で音を楽しめる機会を継続的に提供していくことで、子どもたち一人ひとりの感性や表現の広がりを丁寧に支えていきたい。